

ラッシング 守備ベスト10

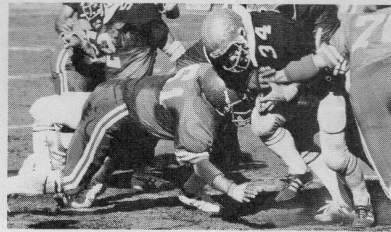
		喪失ヤード (試合数)	一試合 平均
1位	日本大学	-16(6)	-2.7
2	法政大学	147(5)	29.4
3	中央大学	492(7)	70.2
4	千葉商科大学	504(7)	72.0
5	近畿大学	511(7)	73.0
6	日本体育大学	539(7)	77.0
7	創価大学	417(6)	83.4
8	成蹊大学	684(7)	97.7
9	桜美林大学	717(7)	102.4
10	青山学院大学	724(7)	103.4

とインターセプトする活躍ぶりだ。そして、インターセプトといえばS F木村が7回でしかも2TDを奪い、同じく小沢も4回。数字の上からみるとまるでゲームを楽しんでいる様にさえ見える程完璧な守備である。そして、このセクションで特筆すべきことは、中大の2位である。攻撃面では、顔を出さなかった中大ではあるが、関東8リーグ優勝の第一の要因とも言える守備陣の活躍。日大同様5-2-R体型で、決して大型選手というわけではないが、スピードのあるリアクションと、整ったシステム守備が総合力となつての結果だ。そして、このセクションでは、さすがに各リーグの優勝校が顔を並べる。日大、中大、千商大、桜美林大、大東大と5校。守備の安定がいかに大切かをしっかりと物語るデータであらう。

型から正確無比のパスを投じた。対戦チームの策略もパーフェクトにできあがったパスパターンを破る事はできなかった。秋山が582、大用が468、黒田が521ヤードと3人が大きく貢献している。日大は6試合で3371ヤード、2位の関大は、7試合で1549ヤード、全くずば抜けた存在である。2位以下は、トップとは大きく開きがあるが、傾向としては、関大、近大、関学と上位に関西勢が進出しているということだ。関大は、トータル、ランに続きパスでもランキングに入り、申し分のない攻撃内容であった。この関西勢の攻撃パッシング部門での健闘イコール、関西では、いかにパス攻撃が試合の大半をしめるかをうかがわすデータだ。

この3校に続いて大東、成蹊、日体、桜美林、早稲田、そして法大と入る。法大のこの部門でのランキング入りは、ランからパスへと変貌を狙うコーチらの新思考がうかがえる。

日大のマイナスヤードの記録は当分は破れないのでは



一試合平均マイナス2.7ヤード

4冠王の日大だが、特にこのセクションでは、異常とまで思われるデータが出た。喪失トータル-16、一試合平均-2.7ヤードという日大守備だ。このデータからゲーム展開を想像してみると、毎回ランニングアタックに対して、スクリメージを越す事は許さず、逆にロスタックルをしているという事だ。法政に41ヤード、東大に28ヤード、いずれもラインカ

のあるラン主体のチームに69ヤード与えただけで、後は全てマイナスヤードだ。立教には-61ヤード記録されている。とにも角にも恐るべき守備の結果が明らかになった。そして、2位が法大の147ヤードで、アベレージ29.4ヤード、これは、ラン主体のチームなだけに、敵ラン攻撃にもすばやくリアクトできるという事であろう。つまり、良いRB岡田、永井といった選手との練習により、すばやい反復がなされているという事である。中大は、守備トータルのセクションでも述べたが、総合的に動きが良く、守備面では完璧に近いといえる。しかし、何と言ってもこのベスト10の1位から10位までの差が760ヤードもあるのに驚く、日大の打ち立てた、このマイナスヤードの記録は当分破られる事はないだろう。

パッシング守備ベスト10



中大守備ラインのラッシュでQBにプレッシャーを

		喪失ヤード (試合数)	一試合 平均
1位	大東文化大学	219(6)	36.5
2	上智大学	275(7)	39.3
3	一橋大学	276(7)	39.4
4	日本体育大学	283(7)	40.4
5	中央大学	287(7)	41.0
6	明星大学	294(7)	42.0
7	関東学院大学	298(7)	42.6
8	東海大学	319(7)	45.5
9	城西大学	274(6)	45.7
10	成蹊大学	323(7)	46.1

大東パスカバー良く一試合36.5ヤード

日大に独占されていた守備ではあったが、このセクションで一挙にローズリーグの大東大が喪失合計219ヤード、一試合平均36.5ヤードとトップに踊り出た。DB星野、荒川、S F坂田らの好判断でレシーバー陣を完全にマーク、再々のパスカットを浴びせた。また5-3体型のMLB林は、ラン攻撃に対しても勿論だが、パスゾーンに鋭く下がり2回のインター

セプトをし注目される。フロントラインも、確実なパーストによって、絶えずQBにプレッシャーをかけ、この躍進に役かっている。2位上智大学は、首都8リーグで7位ながら、パス守備はずば抜けているといえよう。6-2守備と一見ラン守備体型の様に思えるが、DE宮田、鈴木らのアウトサイドのカバーが良く、十分パス攻撃に対応できる事が立証された。攻撃面での成長が、この大学の上位進出のカギになる。3位の一橋大は、ローズリーグで千商大と接戦の末惜しくも2位となった大学らしく、このセクションでの上位は然るべしというところだ。やはり、守備面では、中大が顔を出す。ランキング5位ながら、守備ラッシング部門でも3位と安定した守備をうかがわせた。

ただ留意したいのは、パスでのヤードが少ないのは相手チームのパス攻撃いかんによる所が多い、ということをつけ加えておこう。